甲　山　探　鳥　会

日　時：2024年12月5日（木）　10時～14時30分

場　所：大泉緑地公園　（大阪メトロ御堂筋線　新金岡駅2番出口　徒歩東へ約15分）
（集合場所：10時　金岡口入る噴水前）

【鳥の「被食散布」】

植物が遺伝子を残す方法には様々な方法が有りますが、その中の一つに「被食散布」が有ります。多くの動物がこの方法に協力していますが、鳥類も重要な役割を果たしています。

ツグミ、ヒヨドリ、メジロなど果実を好んで食べる種は多く居ますが、秋に成ると北方から多くの渡り鳥が飛来し、また国内でも多くの留鳥が温暖な地域へ移動するタイミングに合わせるかのように沢山の果実が実ります。

これらの鳥が好んで食べる果実としては、マンリョウ、ヤブコウジ（十両）、アズキナシ、ソヨゴ、ナナカマドなどの赤い実、ヒサカキ、クスノキ、ナツハゼなどの黒い実、またタラノキ、ミズキ、クマノミズキ、クサギなどでは、果実は黒く、果実に付属する果柄、萼片が赤色になる二色パターンが有りますが、特にこの二色は鳥には目立つ様です。

更に面白いのはこれらの果実の殆どは短径が３～１８ｍｍで、これは果実を食べるツグミ科、ヒタキ科、ヒヨドリ科などの口の大きさ（幅）は７～１８ｍｍなので、これに合わせて食べやすいように果実の大きさを進化させた様です。

その他にも、まだまだ不思議で面白い関係は沢山有るようで、「恐るべし植物の戦略」と言え興味は尽きません。

この時期見られそうな鳥（鳥名は山と渓谷社図鑑「日本の野鳥」掲載順）

	オカヨシガモ		オオバン		ムクドリ
	マガモ		ユリカモメ		シロハラ
	カルガモ		トビ		ツグミ
	コガモ		ハイタカ		ルリビタキ
	ヒドリガモ		オオタカ		ジョウビタキ
	ホシハジロ		ノスリ		スズメ
	キンクロハジロ		カワセミ		ハクセキレイ
	ミコアイサ		コゲラ		アトリ
	カイツブリ		モズ		カワラヒワ
	カンムリカイツブリ		ハシボソガラス		シメ
	キジバト		ハシブトガラス		コイカル
	カワウ		ヤマガラ		アオジ
	ゴイサギ		シジュウカラ		
	アオサギ		ヒヨドリ		
	ダイサギ		ウグイス		
	コサギ		エナガ		
	バン		メジロ		

出典：文一総合出版「BIRDER 2024年12月号」『タネまく動物の見どころ』より抜粋　　森永啓司

（注1）参加されます方は名札の着用をお願い致します。